

情報Iを1年間行い、 観点別評価をしてみても考えた事

関西創価高等学校 辻誠一

辻誠一

Your challenge
creates
the future.

- 関西創価高等学校教諭

- 開隆堂「実践 情報 I」共同執筆者

- 役職

- 世界市民教育推進室室長

- 情報科主任 探究科主任

- 教務副部長

- ICT委員 スクールポリシー検討委員etc... もういらな
い
ですよ

- 現在一番力を入れている事

- 探究学習の発展、整理、統合

はじめに

Your challenge
creates
the future.

- 大阪府交野市にある中高併設の学校
- 本校はSGH(スーパーグローバルハイスクール)に認定されていた。
- 今はSGHネットワーク校
- ありがたいことに、中間評価では**最高評価**をいただきました。



○中間評価の結果について

・「優れた取組状況であり、研究開発のねらいの達成が見込まれ、更なる発展が期待される。」(4校)

<学校名>

名古屋大学教育学部附属中・高等学校

京都府立鳥羽高等学校

関西創価高等学校

愛媛大学附属高等学校

33	関西創価高等学校	<p>○探究のプロセスにのっとって事業が展開されており、教科で習得した学びを課題解決に役立てている点が極めて高く評価できる。</p> <p>○特に、探究型総合学習で生徒が積極的に運営に関わっており、生徒意識調査で多項目に亘り意識が向上している点や数々の事例を取り入れた教材開発が進められている点も極めて高く評価できる。</p> <p>○なお、卒業生を中心とした海外大学との連携、高大連携を活用したキャリアデザインアドバイザーなど、学びの環境が整えられている点やCritical Writing Centerの設置・活用など、補助的環境が効果的に設定されている点も評価できる。</p>
----	----------	---

文部科学省HPより(平成29年9月29日より掲載)

ICT環境

Your challenge
creates
the future.

- 本校はGoogleと法人契約をしていて、当初からGoogleサービスの恩恵を受けていた。
- Google Classroom等もいち早く導入したものの、それを普段から使うツールがない
- そこでICT委員会が主導してタブレット、Chromebook導入を推進（何回も法人と折衝）
- そして2020年度からChromebookを導入。コロナ禍も相まって、休校期間中の当初からオンライン授業をいち早く進めることのできた全国でも稀な学校

様々な授業実践をしても…

- そのような中、ICT環境を最大限に活用した授業を展開（GoogleClassroomは2014年の9月から使用）
- この全国大会でもいろいろな面白い発表がありますよね
- そのようなことを提案しても、他の先生はあまり乗り気にならない。その原因の一つとして…
 - 楽しい授業は分かった。で、評価はどのようにつけているの？それができないと使えない
- 多少、逃げの言葉と思うが、こちらとしては説明責任をある程度果たす必要があるとも考えた

だったら

- 学習指導要領に則ってしっかり評価できて、さらに楽しく生徒たちに身に付けばいいんでしょ？
- ありがたいことに、私自身、都立高校で3年間評価についても細かく教えていただく機会を設けてもらえた
- 指導要録にも観点別評価を記入することもあり、また教務副部長でもあるので、自分がまずはトップランナーとして考えていこうと思う
- より生徒に力が付き、楽しい授業ができるよう、工夫を凝らしてみよう

学習指導要領総則(P20)より

- 生徒の発達の段階や特性等を踏まえつつ、次に掲げることが偏りなく実現できるようにするものとする。
 - (1) 知識及び技能が習得されるようにすること。
 - (2) 思考力、判断力、表現力等を育成すること。
 - (3) 学びに向かう力人間性等を涵養すること。
- これにより「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の3観点が表示される様になった

情報科ならば(P190)

- 知識及び技能：情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決する方法について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについての理解を深めるようにする
- 思考力・判断力・表現力等：様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う
- 学びに向かう力・人間性等：情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う

情報 I ならば(P190)

- 知識及び技能：効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする
- 思考力・判断力・表現力等：様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う
- 学びに向かう力・人間性等：情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う

情報 I に関しては

- 「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体的な取り組み」をバランスよく見ていこうと考えている
- 定期テストは「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」を問うようなもの
- 普段の授業は「知識・技能」をなるべく少なくして「思考力・判断力・表現力」、「主体的な取り組み」に重点を置いた内容を作っていきたいと考えて作っている

普段の授業という意味で…

- 例えば、問題解決の一環として以下の内容で取り組んでもらう
 - 高校生になって自分の生活を改善しよう
- この内容で、生徒に自分自身の生活のルーブリック表を自ら作成するといったことをさせる
 - どういった目標を立てるのか
 - 主体的な取り組み**
 - ルーブリックを誰が見ても適切な評価項目になっているのか
 - 思考力・判断力・表現力**

こんな感じで…

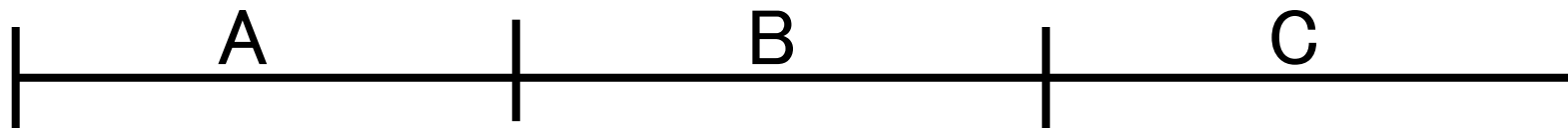
- 知識・技能が当然必要な場面もあるが、なるべく、生徒の成果物等でどれだけ生徒が「主体的に」取り組むことができるかどうかを問う題材をそろえている

これで評価していったら

- 知識及び技能の平均(40点満点) : 24.5点
- 思考力・判断力・表現力等(30点満点) : 19.3点
- 主体的な取り組み(30点満点) : 21.1点
- 全体の平均 : 64.6点
- 何と内規通りの間の数値に収まってしまった(実際には欠試メンバー等もいるので、平均とは若干違う)
- ちなみに今回のABCの区分けは単純に点数を三等分した数と考えた

つまり

Your challenge
creates
the future.



	A	B	C
知識・技能(40)	28以上	14-27	13以下
思考・判断・表現(30)	21以上	11-20	10以下
主体性(30)	21以上	11-20	10以下

今までの評価との齟齬

- 今回の僕の観点別評価と今まで通りの本校の5段階評定と齟齬がないかも、仮に5段階評定を出してみても、検証した。
- すると少し、齟齬が見えてきた

問題点

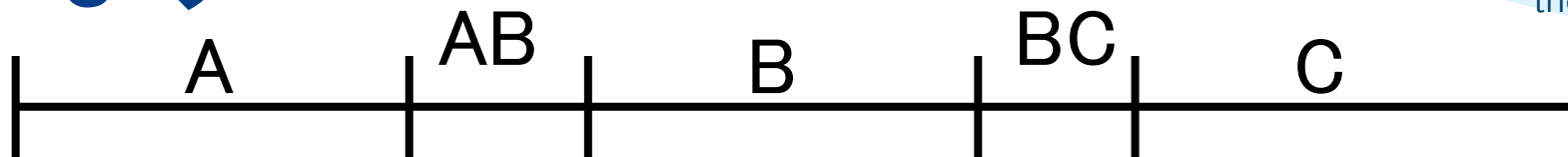
1. 本校はたとえ情報的な内容が苦手であったとしても、「何とかして提出して向上していきたい」と思う生徒が本当に多く、「主体的な取り組み」は7割程度「A」評価になってしまっていた。
2. 本当はバランスよく成績は取ってほしい所だが、課題や観点等で何かしらが突出している生徒が良い成績になる場合がある。
3. 観点内など配点を変えると、他の生徒も当然点数が変化するため、バランスよくいかない。

2、3学期改善点

- 今回はABCの区分けを単純に点数を三等分した数と考えたが、それがうまく機能していない感じが見えた
 - きっちり三等分ではなく、A-B、B-Cの間に2-3点程度のグレーゾーンを設けて、全体の状況に応じて評価を変えてもいいのかもしれない
- 「主体的な取り組み」は「皆が本当に主体的ならば多くAを出してもいいんじゃない」という考え方もいいと思う

つまり

Your challenge
creates
the future.



	A	AB	B	BC	C
知識・技能(40)	29以上	27,28	15-26	13,14	12以下
思考・判断・表現 (30)	22以上	20,21	12-19	10,11	9以下
主体性(30)	22以上	20,21	12-19	10,11	9以下

これにより

- 観点別で3つに分かれているだけでなく、生徒個人を総合的に見る視点も盛り込みながら観点別評価を行うことができるようになった。
- 2のように何かの観点だけ突出するといった事を、他の観点と共に生徒の状況を見ながら判断できる。
- 3のように一本の線のみ境界線ではなく、幅を設けることにより、他の生徒に対する影響を最小限に食い止めることができるようになった。

さらに進化

- ここまでは昨年度の話
 - 今年度の高校1年生から「AiGROW」を導入
 - 株式会社IGSの製品
- <https://www.aigrow.jp/aigrow>
- 非認知能力を計測するものとして、兄弟校では使用をしていた
 - 遅ればせながら本校も今年から高校1年のみ使用開始
 - 今回は7月に行った結果を通して非認知能力を見ることができる(らしい)

コンピテンシー計測(強みと魅力)

- 今回は以下の内容で計測した
 - 認知: 課題設定、論理的思考、疑う力、創造性
 - 自己: 個人的実行力、自己効力、成長、興味、耐性
 - 他者: 表現力、共感・傾聴力、柔軟性、影響力の行使
 - コミュニティ: 地球市民
- 以上のことを自己評価と相互評価を行い、算出された数値が出てくる。
- これが低い能力、低い能力、伸ばしやすい能力といったものを各人示してくれる

そこで

- これって、「思考力・判断力・表現力」、「主体的な取り組み」をある程度、しっかり評価しているかどうかを知る事ができるんじゃないか？
- 自分の成績評価って、どのコンピテンシーを測っているものなのだろうか？
- ということで、1年1学期の成績と、これらコンピテンシーの相関関係を調べてみました

1学期の成績とコンピテンシーの相関係数

our challenge
creates
the future.

コンピテンシー	相関係数
課題設定	0.445
論理的思考	0.48
疑う力	0.414
創造性	0.269
個人的実行力	0.369
自己効力	0.324
成長	0.389
興味	0.347

コンピテンシー	相関係数
耐性	0.307
決断力	0.344
表現力	0.384
共感・傾聴力	0.379
柔軟性	0.289
影響力の行使	0.273
地球市民	0.471

Your challenge
creates
the future.
影響力の行使地球市民

他の教科等も見てみると...



- 課題設定、論理的思考、地球市民が半数以上の科目でトップ3の中に入っている
- 成長、疑う力も比較的トップ3に入っている
- 結論:我々は分かりやすく認知できる能力で成績評価をしている場合が多い。特に論理的思考は顕著

逆に

Your challenge
creates
the future.
影響力の行使 地球市民



- 創造性は全科目でワースト3内
- つづいて影響力の行使、柔軟性、自己効力が評価に含まれていない
- 結論: 創造性が評価との関係性が薄い。その他、他者に対するコンピテンシーも評価に含まれていない傾向性がある

今後の課題

- タイピングは練習回数、また提出物等を粘り強く出し続けていれば、その成績の伸びが悪くても、「主体的な取り組み」をしていると言えるのか？
- 「思考・判断・表現等」として評価しているが、それがどういった「主体的な取り組み」で取り組んでいるのか。そのモチベーションに対するケアの可否。
- 最低限、どこまでの「知識・技能」があれば、それなりの「思考・判断・表現等」ができるのか。

結論

- はっきりした答えは出ないと思うが、納得できるところまで持っていきたい
- 先ほど紹介したAiGROWというまた今までにない「ものさし」も用いながら、取り組んでまいりたい